

令和8年度

学 力 向 上 プ ラ ン 【後期】



上尾市立大谷小学校

目 次

上尾市立大谷小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」	1
-----------------------------	---

1 学力調査結果の概要

(1) 上尾市立小・中学校学力調査（令和7年12月実施）	2
【2～6年：国語、算数】	
(2) 全国学力・学習状況調査（令和8年4月実施）	7
【6年：国語、算数】	
(3) 埼玉県学力・学習状況調査（令和8年5月実施）	8
【4～6年：国語、算数】	

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組	10
(2) 教育活動全体を通じた取組	13
本校の特色ある取組	
家庭教育との連携	

上尾市立大谷小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標「心豊かでたくましい子」

【知】自ら学び 自ら考える子

【徳】豊かな感性をもち 思いやりのある子

【体】健康で粘り強く やりぬく子

学校課題研究主題

「身に付けたことを活用し、自分の考えを深める児童の育成～読み取る力、書く力、伝える力を伸ばす学習指導を通して～」

学力・学習状況調査の結果

R8 全国学力・学習状況調査	R8 埼玉県学力・学習状況調査	R7 上尾市立小・中学校学力調査
・全国の平均正答率と比較すると、本校は国語で2.9ポイント、算数で2.4ポイント低い。 ・国語では、学年別漢字配当表の漢字を文章内で正しく使う力が課題である。無回答率が全国と比べ、1.6ポイント高い。 ・算数では、言葉と数を用いて理由や考え方を記述することが課題である。	・学力レベルの平均は、6年生の国語2レベル、5年生の国語が3レベル、算数が2レベル伸びている。 ・国語では、選択式での正答率は比較的安定している一方、記述式や条件付きの短答式において課題が見られる ・5年生は学習方略や自己効力感が伸びている一方、6年生は作業方略を中心に全体的に低下している。「やりぬく力」と「学び方の技術（作業方略）」の不足が学校全体の課題である。	・領域別に見ると、国語科「話すこと・聞くこと」の正答率は、ほとんどの学年が目標値を上回っている。一方で、「書くこと」の正答率は、全学年目標値に達していない。 ・解答形式について、記述式の問題は、国語・算数ともに目標値よりも低い。特に算数は、ほとんどの学年が10ポイント以上低い。自分の考えを式に表すなどの力に課題がある。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①「読む・書く・計算」ができる力 ②言葉について理解を深め、活用できる豊かな語彙力	③理由を明確にし、順序立てて考える力 ④分かりやすく相手に伝える力	⑤本時や単元の見通しをもって学習に取り組む力 ⑥自分の学習の様子を客観的に振り返り、ねばり強さや調整しようとする力

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
・問題を正しく読み取るための手立てと工夫を行う授業 ・何を学び、何ができるようになるのかが分かる授業 ・学んだことを活用して、問題解決に取り組む授業展開の工夫	・自らの課題を明確にし、児童の言葉でまとめる授業 ・他者に分かりやすく伝えることを意識し、自力解決の時間を充実させる授業 ・自分の考えを広げたり深めたりする話し合いや学び合い活動	・振り返りやレポート、学習の積み重ねを文章で記録する活動の充実 ・友達の考えを認め合い、互いに高め合う授業づくり ・自己の学び方を振り返る時間の確保と記録

本校の特色ある取組

- 読む力を高める手立てと工夫を行う授業実践
- ICTを効果的に活用した授業実践
- 教科担任制による教科指導の充実
- 読書活動の推進
- 参集型やオンライン型を活用した集会活動

家庭教育との連携

- 学校運営協議会との連携
- オンラインを活用した情報発信
- 学校行事の精選と充実
- 地域への情報発信
- 家庭学習の推進

1 学力調査結果の概要			
(1)上尾市立小・中学校学力調査(令和7年12月実施)			
2年【国語】			
項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	○「情報の扱い方に関する事項」の正答率は、昨年度と比較すると、13.5ポイント上昇した。 ●教科全体の正答率が目標値より6.7ポイント下回っており、「書くこと」については22.1ポイント下回っている。
基礎・活用	基礎	▼	
	活用	▼	
観点	知識・技能	▼	要因分析
	思考・判断・表現	▼	「文章を書く」の正答率も低く、語彙力や文章を書く力が定着していない児童が多い。
	主体的に学習に取り組む態度		
国語科の重点目標	・「読む・書く」の力を身に付けさせる。 ・言葉についての理解を深め、活用できる語彙力を高める。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	ものがたりを読みとる	場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。	挿絵カードの並び替えを通し、話の順序や行動を捉えさせる。
②	文章を書く	伝えたいことを明確にしている。	自分の思いや考えについて、理由を明確にした文章を繰り返し書かせる。
2年【算数】			
項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	○「かけ算」の正答率が目標値より2.2ポイント上回っている。 ●全体的に正答率が目標値より下回っており、「たし算」については、10ポイント以上下回っている。
基礎・活用	基礎	▼	
	活用	▼	
観点	知識・技能	▼	要因分析
	思考・判断・表現	▼	計算処理能力に課題が見られる。授業の中で、練習問題に繰り返し取り組ませたり、問題の解き方を説明させたりする場面を設ける必要がある。
	主体的に学習に取り組む態度		
算数科の重点目標	・計算処理能力を育成する。 ・具体物を使って視覚的に分類し、表やグラフの作成に取り組み「データ活用」能力を育成する。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	1000までの数	数直線の1めもりの大きさを理解している。	数直線の1めもりの大きさに着目させ、数を読む指導を行う。
②	たし算	10をもとにして、(何十)+(何十)の計算をしている。	10のまとまりに着目させ、図や式を用いて繰り返し計算させる。
評価について	△	目標値を上回る	※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。
	≒	目標値と同程度	
	▼	目標値を下回る	

3年【国語】			
項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○目標値と比べ、「話すこと・聞くこと」「話し合いの内容を聞き取る」の正答率が上回っている。 ●「情報の扱い方に関する事項」の正答率が目標値より10ポイント以上下回っている。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	≒	対話での聞き取りは得意な傾向にあるが、一方で情報を整理し活用する力が不足していると捉えられる。
	主体的に学習に取り組む態度		
国語科の重点目標	・目的に応じて必要な情報を整理し、関係付けて読み解く力を育成する。 ・集めた情報をもとに、自分の考えの根拠として図や表にまとめる能力を育成する。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	文章を書く	相手や目的を意識して、伝えたいことを明確にしている。	相手や目的を設定し、伝えるべき内容を整理して書かせる。
②	文章を書く	叙述を基に文章の内容を捉えている。	一番伝えたいことを明確にし、理由や事例を挙げて書かせる。
3年【算数】			
項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	○「円と球」の問題における正答率は、目標値を5ポイント以上上回っている。 ●「10000より大きい数」に関する問題が3問あるが、全ての問題における正答率が、目標値と比べ10ポイント以上下回っている。
基礎・活用	基礎	▼	
	活用	▼	
観点	知識・技能	▼	要因分析
	思考・判断・表現	▼	図形は視覚的に捉えられる反面、大きな数の位取りの理解が不十分である。
	主体的に学習に取り組む態度		
算数科の重点目標	・数の仕組みや位取りに着目し、数量の大きさを正しく捉える力を育成する。 ・具体物や図的な表現と結び付け、抽象的な概念を論理的に考える態度を育成する。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	10000より大きい数	千万の位までについて、十進位取り記数法による数の表し方を理解している。	千万までの位取り表を活用し、十倍ごとに位が上がる仕組みを学ぶ授業を展開する。
②	10000より大きい数	数の相対的な大きさについて理解している。	「一万のまとまり」とし、何個分かで数の大きさを捉えさせる。
評価について	△	目標値を上回る	
	≒	目標値と同程度	
	▼	目標値を下回る	
	※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。		

4年【国語】			
項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○「漢字を書く」正答率が、目標値より10ポイント以上上回っている。「理由や事例を明確にして自分の考えを書く」においては、6.7ポイント上回っている。 ●「漢字を書く」の問題のうち、送り仮名を入れる問題は、正答率が下がってしまった。「話す・聞く」の領域の問題は正答率が低い。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	≒	基礎的な記述力はあるが、送り仮名の規則や聴解力に課題がある。また、相手に自分の考えを伝える力が弱い。
	主体的に学習に取り組む態度		
国語科の重点目標	・送り仮名の規則を正しく理解し、記述に生かす力を育成する。 ・相手の意図や要点を意識して、正確に聞き取る力を育成する。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	活動を振り返って話し合う	話し手が伝えたいことの中心を捉えている。	話し合い活動を通して、話し手の発言の要点や中心となる言葉を意識して聞き取る学習活動を行う。
②	活動を振り返って話し合う	相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら話している。	理由や事例となる具体策を明確にし、構成を考えて話させる。
4年【算数】			
項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○「概数に対応する数の範囲」における正答率が、目標値より上回っている。また、「小数の計算(小数第一位+小数第二位)の正答率は、10ポイント以上上回っている。 ●「上から二桁の概数の表し方」における正答率が、目標値より11.8ポイント下回っている。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	▼	範囲の理解や小数の計算を処理する力は身に付いているが、四捨五入の処理に課題がある。
	主体的に学習に取り組む態度		
算数科の重点目標	・小数の計算や概数の範囲への理解を、確実な定着へとつなげる指導をする。 ・四捨五入の手順を正しく理解し、目的に応じた概数を表す力を育成する。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	小数	小数で表している重さの単位変換ができる。	単位の関係を十進位取り表で捉え、小数点の移動と結び付ける。
②	億と兆・がい数の表し方	上から2けたの概数の表し方を理解している。	上から3けた目を四捨五入する手順を、図や式で繰り返し確認する。
評価について	△	目標値を上回る	※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。
	≒	目標値と同程度	
	▼	目標値を下回る	

5年【国語】			
項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○「話すこと・聞くこと」は、14.3ポイント、「読むこと」は、7ポイント正答率が目標値を上回っている。 ●「書くこと」8.6ポイント目標値と比べ正答率が下回っている。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	≒	正答率を見ると、「話し合いの内容を聞き取る」は高く、「文章を書く」が低いことから、自分の考えや思いを言語化することが苦手な児童が多いと捉えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	≒	
国語科の重点目標	・文章全体の構成を考え、自分の考えや思いを論理的に書く力の育成 ・目的に応じた言葉を選び、意図が正確に伝わる記述力の向上		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	文章を書く	目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にしている。	目的や相手を意識させ、伝えたい核心を整理して書く活動を行う。
②	文章を書く	文章全体の構成や展開を考えている。	構成メモや段落の役割を意識させ、組み立てを考えて書かせる。
5年【算数】			
項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	○「小数のかけ算・わり算」の問題における正答率は、目標値より上回っている。 ●「分数と小数」「図形」の正答率が目標値より下回っており、特に「小数のかけ算・わり算」「図形の角」は20ポイント近く下回っている。
基礎・活用	基礎	▼	
	活用	≒	
観点	知識・技能	▼	要因分析
	思考・判断・表現	▼	計算力は高いが、分数・小数の相互関係や図形の性質の理解が不足している児童が多い。
	主体的に学習に取り組む態度	▼	
算数科の重点目標	・計算の定着を生かし、分数と小数の相互関係を深く理解させる。 ・作図や操作活動を通し、図形の性質や角のきまりを捉えさせる。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	小数のかけ算・わり算	小数第一位×小数第一位(純小数同士の乗法)の計算ができる。	「0.1」を基にする見方や整数化の考えを、図を用いて視覚的に促す。
②	図形や角	しきつめ模様から六角形を見出し、その六角形の角の大きさの和の求め方を説明している。	既習の三角形や四角形への分割を、図や式を結び付けて説明させる。
評価について	△	目標値を上回る	※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。
	≒	目標値と同程度	
	▼	目標値を下回る	

6年【国語】			
項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○目標値と比べ、「情報の扱い方に関する事項」は、1.8ポイント「話すこと・聞くこと」は8.6ポイント上回っている。 ●「漢字を読む」ことは定着しているが、「漢字を書く」ことが苦手な児童が多く、目標値と比べ正答率が12.7ポイント下回っている。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	≒	聞く力や漢字の読みは定着しているが、正確に書く力に課題がある。
	主体的に学習に取り組む態度	≒	
国語科の重点目標	・確かな聞く力や読む力を生かし、日常的な漢字の書字・定着を図る指導を行う。 ・文脈に合わせて言葉を選ぶ意識を高め、正確に記述する力を育成する。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	漢字を書く	第5学年に配当されている漢字を正しく書いている。	5年配当漢字を短文の中で繰り返し書き、文脈と結び付け定着を図る。
②	文章を書く	予想される反論とそれに対する意見を書いている。	話し合い活動の場面では、対立する立場を多角的に捉えさせ、反論を想定して書く活動を行う。
6年【算数】			
項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○「分数のかけ算・わり算」の計算処理における問題の正答率は、目標値と比べると高い傾向にある。 ●「分数のかけ算・わり算」における説明する問題の正答率は、目標値と比べると13.7ポイント下回っている。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	≒	計算力は高いが、立式の根拠を言葉や図で説明する力が低いと捉えることができる。
	主体的に学習に取り組む態度		
算数科の重点目標	・高い計算処理を生かし、立式の意味や根拠を言葉で説明する指導を行う。 ・図や関係図を基に数量の関係を捉え、思考の過程を表現させる授業展開を行う。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	分数のかけ算・わり算	分数のわり算を用いて、どちらのペンキの方がぬれる面積が大きいと説明している。	単位量当たりの大きさの概念を、図や関係図を用いて捉え説明させる。
②	拡大図と縮図	縮図を使って地面から2階のベランダの手すりまでの実際の高さを求め、その求め方を式を使って説明している。	縮尺の意味を捉え、縮図の長さから実際の長さを測る式を説明させる。
評価について	△	目標値を上回る	※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。
	≒	目標値と同程度	
	▼	目標値を下回る	

(2) 全国学力・学習状況調査(令和8年4月実施)

国語

考察(問題と結果の分析)

全体の平均正答率は61.0%となり、全国平均(60.9%)と概ね同水準にある。領域別で分析すると、「思考力・判断力・表現力等」に関する「C 読むこと」が68.9%を示し、埼玉県公立(66.7%)や全国公立(65.9%)の平均を上回ることができた。また、大問1の「【構想メモ】の工夫として適切なものを選択する」(72.4%)や、大問3の「【文章】の特徴として適切なものを選択する」(82.7%)といった選択式問題を中心に正答率が高い。読書活動に親しみ、文章全体の構成を正確に読み取ったり、登場人物の描写や物語の全体像を捉えたりすることができていると捉えられる。

課題の要因分析

「知識及び技能」の「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」(65.8%)は県(69.3%)や全国(66.8%)を下回っている。特に、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく書く問題において正答率は全国より上回っているものの、無解答率が8.2%と高い傾向にある。また、集めた情報を活用して自分の考えが伝わるように書く記述式問題においては、正答率が75.5%と県(76.7%)や全国(76.4%)と下回っているとともに、無解答率が19%以上となってしまった。理由や根拠を明確にして文章を書く・活用することに課題が見られる。

算数

考察(問題と結果の分析)

「測定」領域の正答率が85.7%に達し、県(79.3%)や全国(78.1%)の平均より上回ることができた。大問別の結果においては、大問3(1)の「小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることの理解」(98.0%)や、大問4(2)の「示された情報を基に条件に合う時間を求める問題」(85.7%)など、基礎的な知識・技能の定着や日常生活の具体的な場面における計算の活用に関する問題では、高い正答率を示している。既習の計算手順や基本的な概念、直感的に把握しやすい場面での問題解決力は、着実に身に付いていると考える。

課題の要因分析

領域別では「C 変化と関係」(34.7%)の正答率が著しく低い。評価の観点別では「思考・判断・表現」(39.0%)と県や全国と比べ、約5%低い。「記述式」(43.9%)においては、県や全国も同じように約5%低く、県と全国との正答率に差がある。特に、基準量・比較量・割合の関係性を判断する問題(大問2(2) 46.9%、大問2(4) 32.7%)や、複雑な表(二次元の表)から条件に合う人数を読み取る問題(大問4(3) 16.3%)、言葉や数を用いて条件や理由を説明する記述問題(大問1(4) 31.6%)の正答率が低く大きな課題がある。

(3) 埼玉県学力・学習状況調査(令和8年5月実施)

※主な参考資料 帳票09、40

国語												
学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
4 年		R8レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	勤勉性
	校内	5-B			R8数値	3.8	3.7	3.7	4.0	3.9	3.8	3.8
	県	5-B			伸び +or-							
	1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする)) ・学力レベルは県平均と同等のレベルとなっている。 ・学習方略と非認知能力において、県平均とほぼ同じであるが、「柔軟的方略」は、0.1ポイント高くなっている。 2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする) ・平均正答率について、「教科の領域等」の「話すこと・聞くこと、書くこと」が県平均より1.4ポイント低いが、他の区分は高い。「評価の観点」においては、県平均を上回っている。 ・「問題別集計結果」を見ると、正答率が県平均より下回っている問題が多いが、「反対の意味の言葉を選択する」では、県平均より12.4%上回っている。 ・「文の主語を抜き出して入力する」「国語辞典で調べられるように、動詞を言い切りの形で入力する」問題では、無回答率が10%以上となっている。 ・「文法・言葉の決まりの定着」を図っていく必要がある。また、国語辞典を活用しながら、教科横断的に「主語を意識した記述」やICTを活用し、「端末への短いまとめ入力」を意識的に取り入れた学習活動の充実が課題である。 ・漢字の読み書きについて、実際に書くことと端末を効果的に活用することを通して、繰り返し学習する。											
学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
5 年		R8レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心
	校内	6-C	3	5-C	R8数値	3.5	3.8	3.3	4.0	3.9	3.6	3.7
	県	6-B	1	5-B	伸び +or-	-0.1	0.2	0.0	0.0	0.1	-0.2	-0.1
	1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする)) ・学力レベルは県平均より下回ってしまったが、昨年度から3段階伸びている。 ・学習方略、非認知能力については、「プランニング方略」と「努力調整方略」が昨年度より伸びている。県平均と比べると、「プランニング方略」「努力調整方略」「認知的方略」は上回っている。 ・「自制心」は、昨年度と比べると0.2ポイント低くなっており、県平均と比べても下回っている。 2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする) ・学習方略の「プランニング方略」、「努力調整方略」「認知的方略」の数値が高い傾向にある。学習の振り返りを確実に行うことで、学習理解を深めるとともに、学習や生活において落ち着いて取り組むことができる環境づくりに努めた成果と捉えることができる。 ・「段落の関係に注目して内容を読み取り、設問に書かれている文に当てはまる言葉を抜き出して入力する」問題では、県平均と比べ、6.3%高い。一方、無回答率が16.9%あり、定着に個人差が見られる。 ・記述式の問題における正答率は、県平均よりもやや上回っているが、無回答率が31.3%と高くなっている。漢字の活用・応用、選択問題、心情の読み取りに課題がある。 ・「自制心」の低下傾向があり、記述式問題のように、少し手間がかかったり思考力を要する課題に取り組む力を育成する必要があると考える。思いついたキーワードをまず書き出させたり、自分のメモを本文や友達の記述とくらべる」作業をしたりして、自分の記述に足りないかを客観的に比較・修正させる学習活動を行う。											
学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
6 年		R8レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会的性
	校内	7-C	2	6-B	R8数値	3.6	3.6	3.3	3.9	3.5	3.4	3.9
	県	7-C	2	6-B	伸び +or-	0.1	-0.1	0.0	-0.1	-0.3	-0.1	0.0
	1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする)) ・学力レベルは県平均と同等のレベルとなっている。昨年度より2伸びている。 ・学習方略では、「柔軟的方略」が昨年度から伸びが見られる。「プランニング方略」「認知的方略」が0.1ポイント、「努力調整方略」については、0.3ポイント減少している。 ・全体的な学力は伸びており(昨年度からの大きな伸び)、インプットされた情報の活用や文章・データの読み取りは比較的心得である。 2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする) ・問題別集計結果を見ると、正答率が県を下回っている問題が多いが、「同音異義語の中から文脈に合うものを選択する」問題の正答率は100%だった。知識の暗記にとどまらず、「文脈に合わせて適切な意味を判断する力が育っていると捉えることができる。 ・全問題において、無回答率が低い。「柔軟的方略」の伸びが「まず手をつける力」が身に付いていることが考えられる。また、課題に応じてアプローチを変えられる柔軟さが身に付いており、難しそうな問題に直面しても「知っている別の方法で試してみよう」「手立てを変えて考えてみよう」考える児童が多いと捉えることができる。 ・問題別集計結果において、「登場人物がどのような人物とされているかをまとめた文に当てはまる言葉を文章中から抜き出す」「文章の内容をまとめた表の空欄に当てはまる内容を抜き出して入力する」問題の無回答率が13%以上を占めている。問いの条件整理が不十分であり、作業が停滞している児童が多いと捉えられる。											

(3) 埼玉県学力・学習状況調査(令和8年5月実施)

※主な参考資料 帳票09、40

算数													
学年	学力レベル				学習方略						非認知能力		
4年		R8レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性	
	校内	4-A			R8数値	3.8	3.7	3.7	4.0	3.9	3.8	3.8	
	県	5-C			伸び+or-								
	1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))												
	・学力レベルは県平均よりやや下回っている。 ・「できないけれど頑張る気持ち」はあるものの、やるべきことへのやる気が低く、考えたことを表現することに課題がある。												
5年	2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)												
	・分類別に正答率を見ると、「図形」が0.1ポイント上回っている。一方、「数と計算」が4ポイント、「測定」が2.7ポイント、「データの活用」が0.8ポイント下回っている。計算に時間がかかる傾向にある。 ・「問題別集計結果」を見ると、正答率が県平均より下回っている問題が多いが、「あまりのあるわり算の文章題を読み、適切なものを選ぶ」の問題は、県平均より5%以上上回っている。 ・「無回答」12%以上を占める問題形式は、「短答式」だった。 ・授業の導入の時間などを活用し、計算の繰り返し学習や単位換算(長さ・面積・かさ等)の練習を行い、基礎的な知識・技能を確実に定着させる学習活動が必要である。 ・話し合い活動を充実させて、「なぜその式・答えになるのか」を説明し合い、根拠を明確にしたり、自分の考えを言語化したりしてノートにまとめさせる活動を行う。												
	学年	学力レベル				学習方略						非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心	
	校内	5-B	2	4-A	R8数値	3.5	3.8	3.3	4.0	3.9	3.6	3.7	
県	5-B	1	5-C	伸び+or-	-0.1	0.2	0.0	0.0	0.1	-0.2	-0.1		
6年	1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))												
	・学力レベルは県平均より下回ってしまったが、昨年度から3段階伸びている。 ・学習方略、非認知能力については、「プランニング方略」と「努力調整方略」が昨年度より伸びている。また、県平均と比べると、「プランニング方略」「努力調整方略」「認知的方略」は上回っている。 ・「自制心」は、昨年度と比べると0.2ポイント低くなっており、県平均と比べても下回っている。 ・粘り強く学習へ取り組みめないことが学力の低さにつながっていると捉えられる。												
	2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)												
	・「テープ図に色を塗ったところの長さを求める」の問題において、正答率が県平均を11.5%上回っている。また、「数直線から読み取った数を仮分数に表す」問題は、5.5%上回っていることから、「認知的方略」の高さが「視覚的モデルの活用」に直結していると言える。知識・技能が定着しており、抽象的な数値を具体的なイメージに置き換えて処理できていると捉えることができる。 ・「ゴムひもを伸ばした割合と、同じ割合で伸ばした別のゴムひもの長さを求める」と「二次元の表から比較する2つの値を見つけ、差を求める」問題における無回答率がいずれも13%以上となっている。「求めたいゴールは何か」「分かっている条件は何か」を可視化させ、「何倍になっているか(割合)」「どれだけ増減しているか(差)」など、必要な情報を抜き出し、共有するなどの学習活動を行っていく必要がある。												
	学年	学力レベル				学習方略						非認知能力	
	R8レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	やりぬく力		
校内	5B	0	5B	R8数値	3.6	3.6	3.3	3.9	3.5	3.4	3.9		
県	6C	2	5B	伸び+or-	0.1	-0.1	0.0	-0.1	-0.3	-0.1	0.0		
6年	1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))												
	・学力レベルは県平均と同等のレベルとなっている。昨年度より2伸びている。 ・学習方略では、「柔軟的方略」が昨年度から伸びが見られる。「プランニング方略」「認知的方略」が0.1ポイント、「努力調整方略」については、0.3ポイント減少している。												
	2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)												
	・問題別集計結果を見ると、「異分母の帯分数のひき算をする」の正答率が県より20.9%「台形の面積を求める」が14.8%を下回っている。解き方の見通す力や、情報を整理・体系化して理解する力(認知的方略)が不足していると捉えられる。公式や計算方法を暗記するだけに留まらず、概念的理解(意味の理解)を深める学習活動が必要であると考えられる。 ・「主張の根拠となるグラフや表を選ぶ」「平均の求め方として、正しいものを選ぶ」の問題において、無回答率が14%を超えている。このことから、問題を見通す力が備わっておらず、複数の情報を目にした際、どこから確認すればよいか分からず思考が停止してしまった児童が多いと捉えられる。 ・「答えが合っているか」だけでなく、問題を解くプロセスを理解させる。問題を解くために必要な情報(公式など)を抜き出す力を育成していく。また、毎時間の振り返りをする時間を設け、本時の授業で何ができて何ができなかったか、次の課題は何かを考えさせ、複雑な課題でも集中を途切れさせずに粘り強く解き進める力を育成する。												

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①「読む・書く・計算」ができる力 ②言葉について理解を深め、活用できる豊かな語彙力	③理由を明確にし、順序立てて考える力 ④分かりやすく相手に伝える力	⑤本時や単元の見通しをもって学習に取り組む力 ⑥自分の学習の様子を客観的に振り返り、ねばり強さや調整しようとする力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、②	①会話や叙述をもとに読み取り、書く取組。 ②読書と音読を充実する取組。	
算数	①、③、⑥	①問題をイメージし、言葉や図、数、式等を繋げて考える取組。 ③訳や理由を見付け、自分の考えを他者に伝える取組。 ⑥数学的活動の充実と実生活の場面を算数の視点とのつながりで捉える取組。	
生活	④、⑤	④体験活動を通して、思いや考えを表現する取組。 ⑤ゴールに向かって計画を立て学習する取組。	
音楽	②、⑥	②言葉のリズムを活かした音楽づくりの取組。 ⑥音楽を表現したり聴いたりして感じたことを振り返る取組。	
図画工作	③、⑤	③自分の思いを生き生きと楽しみながら表現する取組。 ⑤身近な材料や用具を使った取組。	
体育	②、⑤	②運動遊びの行い方やルールを知る取組。 ⑤体を動かす楽しさを十分に味わえる取組。	
英語活動	⑤、⑥	⑤外国語に触れ活動を楽しむ取組。 ⑥コミュニケーションの楽しさを振り返る取組。	
特別の教科 道徳	③、⑥	③役割演技を取り入れて自分の思いを語り合う取組。 ⑥日常生活場面であったことを関連させる取組。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（中学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①「読む・書く・計算」ができる力 ②言葉について理解を深め、活用できる豊かな語彙力	③理由を明確にし、順序立てて考える力 ④分かりやすく相手に伝える力	⑤本時や単元の見通しをもって学習に取り組む力 ⑥自分の学習の様子を客観的に振り返り、ねばり強さや調整しようとする力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、②	①会話や叙述をもとに読み取ったり、文章を書いたり、話し合ったりする取組。 ②読書と音読を充実させ、辞典で調べる取組。	
社会	②、⑤	②調べたり、作業したり、体験したりする活動を充実させる取組。 ⑤学習のゴールを明確にし、単元で学んだことをまとめる取組。	
算数	①、③、⑥	①問題をイメージし、図や数、式、言葉等を繋げて考える取組。 ③図や式を関連付け、自分の言葉で表現する取組。 ⑥友達の考え方のよさを見付ける取組。	
理科	③、⑤	③身近な事象を理科の見方で捉える取組。 ⑤問題、予想、結果、考察、結論から新たな問題を見出す取組。	
音楽	②、⑥	②リズムや音を選び、自分の思いを表現する音楽づくりの取組。 ⑥友達と自分の思いや意図を比べ、共有したことを振り返る取組。	
図画工作	⑤、⑥	⑤豊かに発想や構想をしながら表現する取組。 ⑥友達の作品の良さを取り入れる取組。	
体育	②、⑤	②運動の楽しさや行い方、ルールを知る取組。 ⑤安全に活動し、体を動かす楽しさを十分に味わう取組。	
外国語活動	②、④	②外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ取組。 ④自分たちで考えたことを友達に伝える楽しさを味わう取組。	
特別の教科 道徳	③、⑥	③自分と違う立場や感じ方を尊重しながら、自分の思いを語り合う取組。 ⑥約束や社会のきまりを考えることを関連させる取組。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（高学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①「読む・書く・計算」ができる力 ②言葉について理解を深め、活用できる豊かな語彙力	③理由を明確にし、順序立てて考える力 ④分かりやすく相手に伝える力	⑤本時や単元の見通しをもって学習に取り組む力 ⑥自分の学習の様子を客観的に振り返り、ねばり強さや調整しようとする力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、②	①文章の構成についての理解を深め、事実と考えを区別して書く取組。 ②要旨を捉えながらまとめ、意見を伝え合う取組。	
社会	②、⑤	②資料を活用し、読み取ったことや事象に対する意見をまとめる取組。 ⑤単元で学んだことをレポートにまとめたり、プレゼンしたりする取組。	
算数	①、④、⑥	①問題をイメージし、図や数、式、言葉等を繋げて考え状況理解を図る取組。 ④自分の考えが相手に伝わるように表現する取組。 ⑥本時の課題を見付け、自己の振り返りから学習の繋がりを意識させる取組。	
理科	③、⑤	③自然の事象を日常生活と体験から関連させる取組。 ⑤実験・観察の結果と因果関係を分かりやすく表現し、まとめる取組。	
音楽	②、⑥	②リズムや音色の重なり合いのおもしろさや和音の響きを活かした音楽づくりの取組。 ⑥自分の思いや表現に対する意図を深め、共有したことを振り返る取組。	
図画工作	⑤、⑥	⑤豊かに発想や構想をし、用具や技法を選択できる取組。 ⑥学んだ技法や作品の見方を生かし、自分の作品に取り入れる取組。	
家庭	②、⑤	②家族や家庭、衣食住、消費や環境についての理解を深める取組。 ⑤身に付けたことを家庭生活で実践する取組。	
体育	②、⑤	②体を動かす楽しさや行い方、運動について知る取組。 ⑤ゴールに向かって自分の置かれている状況に応じた工夫を選ぶ取組。	
外国語科	②、④	②外国語と日本語との違いに気付き、実際のコミュニケーションで活用できる取組。 ④スモールトークやスピーチ、ペアトークなど会話を充実させる取組。	
特別の教科 道徳	③、⑥	③社会の規準を基に、多面的に物事を捉え、自分の思いを語り合う取組。 ⑥自他の権利を尊重し、義務を果たすことについて考える取組。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組

○読む力を高める 手立てと工夫を おこなう授業実 践	・読みとる力を高めるために学習指導の工夫・改善を図る取組。 ・既習事項を活用して問題解決できるようにし、前時のまとめや振り返りを大切に授業を行う取組や基礎・基本の定着を図る取組。 ・見通しをもたせ、順序立てて考えることができる授業の流れを確立する取組。
○ICTを効果的 に活用した授業 実践	・ICT機器を活用し、自分の考えを伝え合う取組。 ・ICT機器を効果的に活用するための取組。 ・学んだことを中心に自分の言葉で振り返りやまとめを書く活動を充実させる取組。
○教科担任制によ る教科指導の充 実	・3年生以上が教科担任制による教科学習を充実させる取組。 ・ICT機器を活用した授業実践における取組。 ・日課表を工夫し、教師の教材研究にあたる時間の確保と、児童が落ち着いた生活が送れるよう時刻を揃える取組。
○読書活動の推進	・本の貸し出しや秋の読書週間を充実させる取組。
○参集型やオンラ イン型を活用し た集会活動	・目的やめあてに応じた参集型、オンライン型による集会活動の取組。 ・集団行動や規律意識を高める取組。

家庭教育との連携

○学校運営協議会 との連携	・大谷小アクションプランにおける地域と連携した授業実践の取組。(UDトラックスとの国際理解教育、防災教育)
○オンラインを活 用した情報発信	・さくら連絡網等を活用し、アンケートや学年便りをデータ化する取組。 ・埼玉県や上尾市からのお便りや情報の発信における家庭教育の充実に向けての取組。
○学校行事の深化	・運動会や音楽会など、前年度の反省から子供たちの成長につながる内容を精査した行事の取組。
○地域への情報発 信	・学校ホームページを活用した学校運営方針の地域発信、および共通理解を図る取組。 ・ボランティア募集についてさくら連絡網を活用し呼びかけ、地域の教育力を活用する取組。
○家庭学習の推進	・学習習慣を身に付けさせるために学校と家庭が一体となった家庭学習を充実させる取組。 ・家庭学習の習慣化に向けた情報を発信する取組。